

《行程表》

1日目



被爆体験講話
(メルパルク広島)



原爆ドーム見学



千羽鶴を捧げる
(原爆の子の像前)



広島平和記念資料館
見学

2日目



平和記念式典
(平和記念公園)



平和演劇鑑賞
(広島国際会議場)

第10回 伊賀市非核平和推進 中学生広島派遣団 レポート



題字：派遣団 吉田さん

▶「到着するまでの間、8月6日という日に広島にいたりことや式典に参加できることにすごく緊張していました。でも、派遣団の一員としていろいろなことが経験できる2日間が楽しみでした。」(派遣団 松生さん談)



市内の各中学校の代表として、生徒10人を8月5日から2日間広島市へ派遣しました。

参加した生徒は、それぞれの学校の生徒一人ひとりが平和への祈りを込めて折った千羽鶴を原爆の子の像へ捧げました。また、平和記念式典への参加や平和記念資料館の見学、被爆体験講話などを通じて、69年前に起きた人類史上最初の原子爆弾による悲惨な現実を、見て、聴いて、肌で感じて、非核平和への思いを新たにしました。その内容を生徒のレポートからお伝えします。



被爆体験講話



▶▶被爆体験講話に聞き入る生徒たち

13歳のとき、爆心地から約2km離れた軍関連施設で作業中に被爆した森田節子さんからお話を伺いました。

◆崇広中学校 山田 怜奈

森田さんから話を聞かせていただきました。原爆が一瞬にして色々な物を奪ってしまうおそろしさをあらためて知りました。

「友達を大切にするのは生きていくために必要なこと」という言葉がとても印象に残りました。

◆霊峰中学校 西條 夢人

被爆体験講話を森田さんから聞かせていただきました。

川にゴミのように遺体が流れているという話が印象に残っています。多くの命を奪った原爆を許せないし、二度と同じ悲劇を起こしてはいけないと誓いました。



◀平和記念公園内には、平和を願って折られた折り鶴が数多く捧げられています。生徒たちも、伊賀市内の中学生たちが折った千羽鶴を平和への願いを込めて捧げました。

▶平和記念公園
ここで原爆や平和をテーマとしたさまざまな催しが行われました。



◆緑ヶ丘中学校 高野 里紗
原爆の子の像へ行ってまず目に入ってきたのは、平和という言葉です。千羽鶴が色とりどりにたくさん捧げられている中にある平和という文字は、そこに立った人にだから響く何かがありました。鐘を鳴らし平和を祈りました。

市内の中学生一人ひとりが折った千羽鶴を捧げました。

原爆の子の像

▶原爆の子の像
原爆で亡くなった多くの子どもたちの霊を慰め、世界に平和を呼びかけるために建てられた像



このまちでたくさんの方が亡くなっていったんやなあ。
広島は復興したけど生活の中にある原爆ドームは原爆の被害を受けた都市の象徴なんや。
(派遣団 西條さん談)

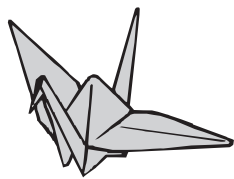


◆島ヶ原中学校 峰 竜矢
原爆ドームは悲しみを思い出すものだが、後世に残すことで、原爆の恐ろしさを訴え続けられる大切な建造物だと思います。僕も原爆がもたらした悲劇を身近な仲間や家族に伝えることで、平和の大切さを訴えたいです。

原爆の惨禍を伝え、核廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボルである原爆ドームの見学を行いました。

原爆ドーム





平和記念資料館

原爆の惨状を示す写真や資料の見学を行いました。



◆城東中学校 吉田 茉莉

資料館には沢山の衝撃的なものがありました。どれも本当にあったことなんだと思うと、怖くてたまらなくなりました。見学しながらその当時の人々のことを考えたら、二度と戦争をおこしてはいけないという思いがよりいっそう強まりました。

◆阿山中学校 堀川 出帆

原爆を広島に落とされた人が後に、「日本は戦争を終えられ幸せだ。」と言っていた。それが間違いだということ、資料館に行つて改めて思いました。今感じた、原爆の恐ろしさを、被爆者と同じ気持ちで伝えていきます。



▲雨天での開催は43年ぶりとなった平和記念式典



▶1日目が終わり、ホテルへ戻った生徒たちは、この日感じたことを話し合いました。

「その日の夜、見聞きしたことを思い出すと怖くて眠れなかった。それくらい戦争は怖いものなんやなと思いました。」(派遣団 山田さん談/写真中央)

平和記念式典

広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式に参加しました。

◆上野南中学校 松生 侑莉

雨がいっぱい降っていたのに、式典には世界中の人々が参加していました。そして、世界中で平和を願っていました。

これからも平和な世界を作っていくために私たちは、一人の人間としてもっと原爆について勉強するべきだと思います。

◆大山田中学校 川極 幸村

多くの人々が参加した式典で、原爆が起こした悲しい事実を絶対に忘れてはいけないと思いました。亡くなった人々のためにも、僕は、平和を求め、被爆者が求めた未来を、しっかりと作っていくべきだと思います。





▲降りしきる雨の中、静かに手を合わせて祈る生徒たち



▶「原爆で亡くなった人への追悼の想い、そして今日学んだ原爆の恐ろしさを後世へ伝えていくという決意を込めて祈りました。」(派遣団 中尾さん談)



日本でこんなに恐ろしいことが
本当におこってたんや…。
外国の人でも千羽鶴を捧げていた。
いろんな国の人
平和を願ってるんやなあ。

(派遣団 高野さん談)



平和演劇鑑賞

広島市立舟入高校ふないりによる創作劇「さんげ」〜原爆詩人正田篠枝しょうたしのえの手記「耳鳴り」より〜を鑑賞しました。

◆柘植中学校 西尾 晃太

演劇の中で「少年の遺影の前のトマト」という話があった。

8月6日の朝、トマトを食べるのを楽しみにして学校へ行くけれど、原爆でトマトを食べられなくなった。少年と母親の後悔がとも伝わってきた。原爆は多くの人の人生を狂わせた。

◆青山中学校 中尾 光佑

劇は、原爆の惨状を歌に詠み多くの人に伝えようとした正田篠枝さんという人についての話だった。

この劇を通して、命をかけてまで原爆の恐ろしさを伝えようとした正田さんの意思を受け継ぎたいと感じた。

【問い合わせ】

人権政策・男女共同参画課

☎47・12886 FAX47・12888

